

CASBEE®-建築(新築) 評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2014年版 | 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2014(v.3.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)福岡市中央区地行浜2丁目マ	階数	地上5F
建設地	福岡県福岡市	構造	RC造
用途地域	商業地域、準防火地域	平均居住人員	0 人
地域区分	7地域	年間使用時間	3,000 時間/年
建物用途	0	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2019年12月 予定	評価の実施日	2017年10月10日
敷地面積	5,519 m ²	作成者	吉田
建築面積	2,658 m ²	確認日	2017年10月10日
延床面積	11,645 m ²	確認者	吉田



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 0.8 ★★★★★

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値: 46 (kg-CO₂/年・m²)

②建築物の取組み: 36 (kg-CO₂/年・m²)

③上記②以外の: 0 (kg-CO₂/年・m²)

④上記+: 0 (kg-CO₂/年・m²)

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです。

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質

Q1 室内環境 (Q1のスコア= 2.4)

音環境	2.0
温熱環境	N.A.
光・視環境	2.7
空気質環境	N.A.

Q2 サービス性能 (Q2のスコア= 3.1)

機能性	3.2
耐用性	3.3
対応性	3.0

Q3 室外環境(敷地内) (Q3のスコア= 1.8)

生物環境	1.0
まちなみ	2.0
地域性	2.5

LR 環境負荷低減性

LR1 エネルギー (LR1のスコア= 3.0)

建物外皮の	3.0
自然エネ	N.A.
設備システ	N.A.
効率的	3.0

LR2 資源・マテリアル (LR2のスコア= 3.3)

水資源	3.0
非再生材料の	3.6
汚染物質	3.0

LR3 敷地外環境 (LR3のスコア= 3.3)

地球温暖化	N.A.
地域環境	3.3
周辺環境	3.3

3 設計上の配慮事項	
総合 本物件は建物内には居室を有しない共同住宅の自走式駐車場である。架構形式の工夫により建物高さを抑え、コンパクトな平面計画で必要な駐車台数を確保しており、圧迫感を抑え洗練されたデザインを有する駐車場計画とした。	その他 注) 上記の6つのカテゴリ以外に、建設工事における廃棄物削減・リサイクル、歴史的建造物の保存など、建物自体の環境性能としてCASBEEで評価し難い環境配慮の取組みがあれば、ここに記載してください。
Q1 室内環境 居室を有しない建物用途であることから、空間の構成はコンパクトな方向性を重視した。	Q2 サービス性能 外気に対して大きく開放された建物であるので内装仕上げ材を用いず構造躯体に塗装を施す仕様であるので、建築部材のメンテナンス性のみならず建築設備の維持管理が容易である。
LR1 エネルギー 空調・換気を有しない建築計画であり、主たる設備である照明もLED器具による適切な照度設定とするなど、エネルギー消費の抑制を図っている。	LR2 資源・マテリアル 仕上材を用いていないため、構造の架構材が主要な建物構成材である。
	Q3 室外環境(敷地内) アメニティの形成は一団地の計画において配慮しており、駐車場棟においては圧迫感を抑えたデザインとすることで周辺との調和を図る地域性を重視した。
	LR3 敷地外環境 建物高さを抑えた開放性の高い建物とすることで、周辺への温熱、風害、日照の影響を軽減しており、騒音・振動・悪臭の恐れのある建築設備は設けていない。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される